

## 月経困難症と薬について

### 【月経困難症とは？】

月経困難症とは、生理直前や生理期間中に生理に伴って起こるさまざまな症状が日常生活に支障をきたすような状態をさします。下腹部痛や腰痛、腹部膨満感、吐き気・嘔吐、頭痛、疲労・脱力感、食欲不振、下痢、イライラ、抑うつなどの症状が出現することがあります。



### 【月経困難症の分類】

原因となる疾患の有無により、機能性月経困難症と器質性月経困難症に分けられます。

#### ・機能性月経困難症

身体的な原因(疾患)がないにも関わらず症状が出現するものをさし、10歳代から20歳代の比較的若い女性に多くみられます。月経の1~2日目の出血量の多い時期に強く症状が出ますが、その症状は1~2日で軽減することがほとんどです。

#### ・器質性月経困難症

原因疾患があるために起こる月経困難症のことをいいます。主な原因疾患としては、子宮内膜症・子宮腺筋症・子宮筋腫などが挙げられます。30歳以降に多く、持続性の鈍痛が月経4~5日前から月経後まで続くことがあるのが特徴です。

### 【月経困難症の治療方法】

対症療法(痛みを和らげる治療)とホルモン療法があり、また器質性月経困難症の場合には原因疾患に対する治療が行われます。

#### ・対症療法(痛みを和らげる治療)

非ステロイド系消炎鎮痛剤(NSAIDs)が主に使用されます。機能性月経困難症を訴える女性の約80%に有効とされていますが、痛みを我慢し続けたあとに内服すると効きにくいいため痛みを感じたらすぐに内服します。その他、漢方薬や鎮痙薬を使用することもあります。

漢方薬としては、血液の流れの改善、血液が不足した状態の解消、筋肉の

痙攣を和らげる効果等があるものを使用し、当帰芍薬散、芍薬甘草湯、桂枝茯苓丸、当帰建中湯などがあります。また、加味逍遙散は月経前症候群を認めるものに効果が期待できます。

鎮痙薬のブチルスコポラミンは、子宮筋の過収縮を抑制することで月経困難症に有効な場合もあり、NSAIDs が使用できない際の痛みに対して使用することがあります。

- ・ホルモン療法

ホルモン療法としては、低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬(LEP)を使用します。毎日決まった時間に服用することで排卵を抑制し、子宮内膜の量や月経時の経血量を減少させることにより月経困難症の症状改善が期待されます。副作用として、服用を開始してしばらくの間、吐き気・頭痛・不正出血などといった症状があらわれることがあります。頻度は低いのですが、重大な副作用として血栓症があります。

ホルモン療法の注意点として、35歳以上で1日15本以上の喫煙、重度の高血圧症、血管病変を伴う糖尿病、血栓症のある方などは服用することが禁止されています。また、LEPを内服している方が手術をする際は、血栓ができやすくなるため一時的にお薬を休薬する必要があります。手術を控えている方は必ずこれらの薬剤を内服していることをお伝えください。

痛みを和らげるために、まずは市販の鎮痛剤を使用されることが多いかと思いますが、ただ、鎮痛剤を服用しても痛みが治まらなかったり、使用量(回数)が増えてしまったりする場合は、産科・婦人科に受診・相談するようにしましょう。

～お薬のことでご不明点な点やご不安な点がある場合には、医師、薬剤師又は看護師までご相談ください。～